

Ⅲ 連携校

昨年度に引き続き、県内連携校（定時制4校、通信制1校）にキャリアカウンセラーを派遣し、各校の実情に合わせた内容で研究成果の普及を図った。

1 連携校の研究成果

(1) 山形県立新庄北高等学校（定時制）

①本校の状況・取り組み

本校は、様々な理由により「学び直し」の場を求めて入学してきている生徒が大半を占めている。全校生徒21名（男子11名・女子10名）ではあるが、その学力や生活スキル・対人能力は正に十人十色で、生徒一人ひとりに応じた細やかな指導が今まで以上に求められているのが現状である。こうした実態を踏まえ、本校では「数多く、或いは繰り返し体験させることを通じて、人や物事に慣れさせ、自信を持たせる」ことに力点を置いて、生徒たちの「自立のための土台」作りに努めている。

②キャリアカウンセラーの派遣（平成28～29年度）について

生徒たちのソーシャルスキルの向上を目標に、「進路の時間」（毎年度10回前後設定しており、主に外部講師による講話やワークショップ等を実施している）を、以下のとおり配当して「ソーシャルスキルトレーニング講座」（全7回）を開講した。

<平成28年度>

講師：桑名 暢氏（キャリアカウンセラー）

	実施日時		テ　　マ
第1回	5月20日(金)	18:40～20:15	進路に関するQ&A ～何でも講師が答えます～
第2回	8月31日(水)	18:40～20:15	見る・聞く・話すことの大切さ
第3回	12月20日(火)	18:40～20:15	大切にしたい3つの習慣と7つの言葉
第4回	2月14日(火)	18:40～20:15	質問力を身につけよう！

<平成29年度>

講師：桑名 暢氏（キャリアカウンセラー）

	実施日時		テ　　マ
第5回	8月29日(火)	18:40～20:15	自分の良いところ探し（自己分析）と 聞く側に伝わりやすい自己PR
第6回	11月17日(金)	18:40～20:15	自己PRの作り方・話し方 ～自分から見た自分・他人から見た自分～
第7回	1月23日(火)	18:40～20:15	働き方・生き方を人から学ぶ

今回の講座（全7回）では、本校の要望や生徒の現状を受け止め、たいへん有効な講座内容を編成していただいた。

平成28年度は、講義や演習を通じて、人間関係や仕事における「見る・聞く・話す」ことの大切さ、社会人の心構え等を、様々な実例を挙げながら教えていただき、生徒はもとより、教師たちも多くのもので得ることができた。

特に、「話す」こと優位のコミュニケーション論ではない、『話す』のが苦手なら、『聞く』力をつければいい、「相手の話を引き出す『質問力』を高めれば、充実した会話ができる」といった講師のアドバイスは、「話すことへの苦手意識」ゆえに他者とのコミュニケーションに尻込みする生徒たちを、大いに勇気づけたものと思われる。



続く平成29年度は、前年度の成果を出発点として、生徒たちの自信と実践意欲をさらに高めるべく、「自分とは何者？」という難問から解放された形での、肯定的な「自己分析・自己理解」の方法と、相手に伝わりやすく見所のある「自己PR」の仕方をテーマとした講義・演習が行われた。また、その合間には、経営者でもある講師自身の知見と人生経験をふまえて、「進学について」、「働くとは？・仕事とは？」、「社会で生きるとは？」、「社会に出て大切なこと」等について、様々な実例とともに熱く語っていただいた。

「高校生に大切なのは、『適性を知る』ことよりも『できること』を知り、それを増やしていくことである。『できること』を利用して、人は働き、生きていく」、「自分の弱点を知ることはよいことである。なぜなら人には、それを強くしようとする習性があるから。弱点は決して短所ではない」、「長所は自分で伸ばす。短所は他人に聞いてそうなのか確かめる」、「自己紹介は過去と現在、自己PRは『将来の自分』を中心に

話す」、「自分が『したい事』ではなく、他人に『必要とされる事』を仕事にする。自分のためだけでは、人は頑張れない」、「『やってみようかな』から始めると、意外と成功する。やれば、見えてくるものがある」等々、講師の言葉は、不器用で自信のない本校生徒それぞれの胸に響き、新たな発見とともに、微かな自信と希望、そして勇気を彼らに与えてくれたようである。

<生徒の振り返り・感想>

- 仕事などでは、見る・聞く・話すことがとても大切だということがわかりました。この三つをしっかり身に付けることで、仕事がスムーズに進むということを教わりました。将来、仕事でしっかり活かしていきたいです。(1年次)
- 今日は心配りのことを教えてもらいました。僕はアルバイトをしているので、すごくためになる講話だと思いました。特に「7つの言葉」が印象に残りました。なぜなら、どれもがバイト先で必ず使うことばだからです。僕の場合、相手に聞こえていない時があるので、いつも大きな声でハキハキと言えるようにしたいです。(1年次)
- 自分では出来て当たり前みたいに思っていることでも、それは自分が出来ていることなので、もっと自信が持てるようにしていきたいと思った。自己PRの仕方など、とても役に立つ話が多くて良かった。(1年次)
- 今回の講座で、自分の良いところはいっぱいあるんだと思いました。これからも、自分の良いところ探しをしていきたい。出来ないことを考えるよりも、出来ることを探すことの方が、前向きになれると思いました。(2年次)
- 私は、今回の講話で、「自分の良いところ探し」をして、少しでも当てはまるものに○を付けたら、思ったよりも○が付いたので、ちょっとびっくりした。「しごと」には「仕事・私事・死事・志事」の4つのとらえ方があることを初めて知った。自分のためだけではなく、お客様のためになる「志事」を意識してバイトを続けていきたいと思った。(3年次)
- 確かに、「自分のために」よりも「他の人のために」の方が長続きします。自分も「他の人のために」を意識していきたいです。(4年次)
- 先生の講話をいつも楽しく聞いております。今回の講話も、いろいろとこれからの生活に役立つ話ばかりで、良い時間を過ごせました。いつも私たちのために、貴重な時間をさいてご指導いただけることに感謝しています。ありがとうございました。(4年次)

③実践によるまとめ ～「まち探訪」(社会体験学習)～

本校では、毎年11月に「社会体験学習」を1～2日の日程で実施している。これは、日中就業していない生徒を対象に「インターンシップ」を体験させる、或いはこれをきっかけとして、アルバイトに就かせることを主眼としているが、近年は「就業しない・できない生徒」や「インターンシップに行くことができない生徒」が2/3以上に達し、ここ数年は外部講師による「進路学習(ワークショップ)」で代替せざるを得ない状況が続いてきた。

今年度は、全21名中、就業者はわずか6名のみで、不登校生徒等を除く11名が対象であったが、インターンシップ希望者はゼロ。仕方なく代替案として「まち探訪」(新庄駅前通りと南北本町通りの商店街におけるフィールドワーク)を企画して、引っ込み思案の生徒たちを「まち(地域)」に引っ張り出すこととなった。その概要は以下のとおりである。

1 日 時 平成29年11月8日(水) 13:00～17:00

2 内 容

- | | |
|--------------------------------|------------|
| (1) 新庄駅前通りと南北本町通りの商店街の観察とマップ作り | } 2～3人の班活動 |
| (2) 商店街インタビュー(1人1店舗以上) | |
| (3) 報告・発表会(学校にて) 15:30～ | |

3 その他

- (1) 「取材依頼の電話」をして、事前にアポを取る。
- (2) 「インタビューは15分以上」を目標にして、質問事項を準備する。
- (3) これまでの各種研修・講座の集大成として、「勇気と自信」をもって全力で頑張る!

「まち探訪」に類する活動は、小学生も普通に行っているもので、高校生には如何なものかという思いもあったが、対象生徒の多くは、小・中学校の時代から「不登校」や「別室登校」であった者たちである。中には「発達障がい」の者もいる。そういう彼らにとっては、見ず知らずの店に電話をして取材の許可を取り、決められた日時に先方を訪ねて15分以上のインタビューを行ってくることは、正に逃げ出したくなるような「難事業」であったはずである。

しかし、桑名先生の「相手の話を引き出す質問力」という教えや溝延先生(山形県若者就職支援センター派遣のマナー講師)による「お辞儀とあいさつ」「電話のマナー」の教えを道しるべとして、一人ひとりの生徒が、それぞれの形で自



己と向き合いながら、全力で目の前の困難な課題解決に取り組み、それをみごと成し遂げてくれたことに、こころからの拍手を贈りたいと思う。

<生徒の振り返り・感想>

- 私は人見知りではありませんが、やはり知らない人にインタビューに伺うのには、少し緊張しました。私たちが決めた行き先は「今田花屋」と「深田菓子店」です。……働く人にインタビューすると、どちらも仕事にやりがいと楽しさを持っていました。その姿を見て、私はうらやましく感じました。「引きこもり」や「ニート」という言葉が長いこと社会問題になっています。働かない若者も増えていますが、私はそうはなりたくないです。働く人にインタビューして楽しかったです。そして将来自分もやりがいのある仕事に必ず就こうと決めました。(1年次)
- ……インタビューでは、新庄の文化や歴史などの話を聞くことができました。今、消えつつある商店街の歴史ある店や昔の人通りのにぎやかさなど、様々な話を聞くことができました。そんな中で、どうしたら商店街がまた昔のようになぎやかさを取り戻すことができるかを、商店街の店の人たちが工夫し、さらにそれを若い人たちに伝えていくことが大切だということを知りました。……最後に「柴田牛肉店」に行きました。アポ無しインタビューという不安もありましたが、KさんとYさんのサポートで、難なく？インタビューを終えることができました。とても楽しかったです。(2年次)
- 私はお店に電話した事は、今まで一度もありませんでした。今回の学習でお店へ電話したのは、人生で初めての事でした。家族に電話するのは何回も経験していますが、今回は知らない人への依頼の電話だったので、「断られたらどうしよう」等という感情が湧いてきて、何回も躊躇しましたが、やはり、ここで逃げたら、卒業してからも一生逃げ続けるような人生を送ってしまうだろうと思い、勇気を出して「大泉書店」さんに電話をかけさせていただきました。紆余曲折がありながらも、なんとか三回目の電話でOKをもらいました。苦勞して得たOKには、本当に達成感がありました。今回のことを踏まえて、いつか私が就職して電話の対応が必要になった際には、この経験を生かすためにも、自ら率先して電話が取れるようになりたいです。(4年次)

(2) 山形県立米沢工業高等学校 (定時制)

①本校の進路状況と取り組みについて

1 主な取り組み

- 就労ガイダンス (1年次対象: 4月) 就労率は約80%
- 宿泊研修 (1年次: 1泊2日、5月に実施)、1日研修 (2~4年次: 5月に実施)
- 職業講話 (全校生対象: 6・11月の2回実施)
6月はハワイ教員との交流会を実施、11月は桑名 暢氏からの講話とワークショップ
- 企業見学会 (全校生対象: 7月に実施、2社見学)
- 生活体験発表 (全校生が原稿を提出: 夏休みの課題)
- 課題研究発表会 (4年次対象: 1月に実施)

2 進路状況 (平成29年度卒業予定者: 4年次8名)

- 県内就職希望3名、県外就職希望1名、進学希望2名、その他2名
- 内定状況 ○県内就職3名 (建設関係、製造関係)
○専門学校進学2名 (調理関係、保育関係)
○現在就労しているアルバイト先に継続して働くことを希望している生徒2名

②キャリアカウンセラーの派遣についてのまとめ

日時	平成29年11月8日 (水) (19:20~20:55)
場所	本校大会議室
参加者	生徒34名及び教職員全員
講師	キャリアプランニング株式会社 代表取締役 桑名 暢 氏
内容	講演「高校卒業後 (次のステップ) 必要な3つの力」 及びワークショップ

③成果

- ・全般の講話を通して、企業を選択するポイントや就労後の心構えなどを、生徒が自分のこととして興味を持って理解することができた。
- ・後半のワークショップでは、人それぞれのタイプに合った対応の方法を具体的に学べ、他の班員とのコミュニケーションや発表の手法を体験しながら理解することができた。
- ・生徒だけでなく教員にとっても有用な講話の内容であり、ワークショップにおいても今後の生徒理解の参考になった。

④課題

次年度以降も継続してキャリアカウンセラーによる指導の必要性を感じるが、費用と講師の人材確保が重要な問題である。

(3) 山形県立鶴岡南高等学校 (通信制)

①本校の進路状況と取り組みについて…個々に応じた指導

生徒一人ひとりの状況や進路希望を把握し、目標が達成できるよう個別に相談しながら進める。進路相談はいつでも受け付けるので、担任の先生に申し出る。担任と進路指導課で相談に応じる。進路希望先への問い合わせなども進路指導課で行う。

なお、年間を通じて日曜スクーリングの放課後には進路室で担当者が待機し、予約なしで相談会を実施している。

1 平成28年度(平成29年3月末)卒業生の進路状況

就職(新規)	就職(継続)	進学	就職進学	アルバイト継続	未定
5(高卒1)	4(正規3)	16	0	3	15

◎就職先<高卒求人>(株)山形クラッチ(製造)

<一般求人>(株)丸正電気工事(電気工事) (株)丸江製作所(製造)
(株)平田牧場(接客) 庄内余目病院(介護福祉士)

◎進学先…東北公益文科大学公益学部公益学科(一般、推薦)

常磐大学人間科学部健康栄養学科(推薦)大正大学文学部日本文学科(一般)
日本女子体育大学体育学部(推薦)、武蔵野美術大学通信教育課程(一般)
東京未来大学通信教育課程(一般)、新潟青陵大学短期大学部人間総合学科(A0)
酒田調理師専門学校(高度調理科1(一般)、調理科1(一般))
山形県立産業技術短期大学校庄内校電子情報科(一般)
大原スポーツ公務員専門学校山形校公務員学科(1年)、
東洋美術学校クリエイティブデザイン科(一般)
日本こども福祉専門学校こども保育学科(一般)
仙台医療秘書福祉専門学校医療秘書科(A0)
日本工学院専門学校デザインカレッジ Webクリエイター科(一般)

◎未定者…就職希望4、進学希望5(予備校を含む)、未定6(家事手伝い等)

2 平成29年度就労状況及び進路希望調査結果(11月末現在)

(1) 現在の就労状況(204名中)

正規職員	アルバイト、パート、派遣
9(4.4%)	80(39.2%)

(2) 卒業後の進路希望(204名中)

就職(継続)	就職(新規)	進学	未定
18(8.8%)	64(31.4%)	49(24.0%)	73(35.8%)

(3) 今年度卒業予定者の進路希望 (54名中)

就職 (継続)	就職 (新規)	進 学	就職進学	未 定
1 (正規1)	15	20	0	18

※進学希望者内訳：四年制大学11名・短期大学0名・専門学校9名

3 今年度の主な計画

6月 進路講演会 学校法人大原学園山形校 進路相談アドバイザー 小原敏之氏

「働くということについて考えてみよう」(生徒35名、保護者5名)

卒業予定者ガイダンス(24名)、インターンシップ事前説明会(7名)

7月 企業見学会、大学進学模試(7月、10月記述模試、10月、11月マーク模試)

9月 高卒求人採用試験開始 センター試験出願手続き

10月 卒業予定者ガイダンス

1月 大学入試センター試験、私大一般入試等

3月 ハローワーク見学会

通年で就職・進学志望者の個別相談と受験指導を行っている。また、進路ニュースを毎月発行して進路情報の提供に努めている。

4 キャリアカウンセラーの派遣について～連携校としての取り組み～

<平成28年度>

10月18日(水)13:30～14:30に、キャリアプランニング株式会社代表取締役の桑名暢氏より「～進路指導・キャリア教育の指導事例について～」という内容で教職員に対して講演をお願いした。今後の生徒との関わり方や進路指導において役立つ内容であり、好評であった。

<平成29年度>

10月19日(木)13:30～15:00に昨年度に引き続いて桑名暢氏より「高校生のキャリア教育とは～本当に必要なキャリアデザインとは～」という内容で教職員に対して講演をお願いした。また、昨年度の反省から今年度は生徒に対してのキャリアカウンセリングを実施する方向で計画し、講演終了後に2名の生徒に対して進路相談を実施することができた。生徒は進路志望達成に向けてどのように取り組んでいけばよいのかという視点から適切なアドバイスをいただくことができた。面談した生徒からは日々の勉強を今まで以上に頑張る気持ちが強くなったという感想などがあり、とても好評であった。

この事業における講演や進路相談は教員から生徒へのアプローチや生徒自身のキャリア教育にとってとても有効であった。

(4) 山形県立鶴岡工業高等学校（定時制）

①本校の進路状況と取り組みについて

今年度の卒業予定生徒は全員が県内就職を希望している。今年は求人件数が多く、いわゆる売り手市場と言えるが、一人ひとりの個性と長所を生かして個別に対応することには変わりがない。進路希望の実現は社会的自立につながる最重要課題と考え、4ヵ年を見通した進路指導計画を年次進行で行っている。進路指導の主な取り組みは下記のとおりである。

- ・進路希望調査（年3回）
- ・進路ガイダンス（年2回）
- ・進路研修（年1回）
- ・進路講話（年2回）
- ・進路四者面談（3月、7月、卒業年次）（12月、全校）
- ・進路報告会

他に関係機関の主催する各種ガイダンスや企業説明会もあり、希望生徒が参加している。個別相談が必要な生徒にはハローワークから照会や面談をいただいている。今年度は上記のほかに、山形大学工学部の見学を実施することができた。

②キャリアカウンセラーの派遣について（本校版「進路サポート計画」）

鶴岡工業高等学校定時制「進路サポート計画」

・内容

生徒対象 進路講話（ソーシャルスキルトレーニング講座等を含む）

生徒対象 個別のキャリアカウンセリング

・講師 キャリアカウンセラー 桑名 暢 氏

7月14日（金） 進路講話、ワークショップ「面接に挑戦 自己表現の方法を学ぶ」

10月11日（水） 個別キャリアカウンセリング（4名）

12月8日（金） 個別キャリアカウンセリング（5名）

進路講話「高校生と社会人 Q&A」

③成果と課題

霞城学園高校のCSプロジェクトは県内の定時制通信制の高等学校が抱える諸問題を組織的に解決するための一方策を提示してくれた。講師による支援が生徒の自覚と成長を促すと言える。

キャリアカウンセリングと進路講話を振り返ったアンケート（12月8日実施）の結果を下記に報告する。アンケートから、キャリアカウンセリングを受けて進路につ

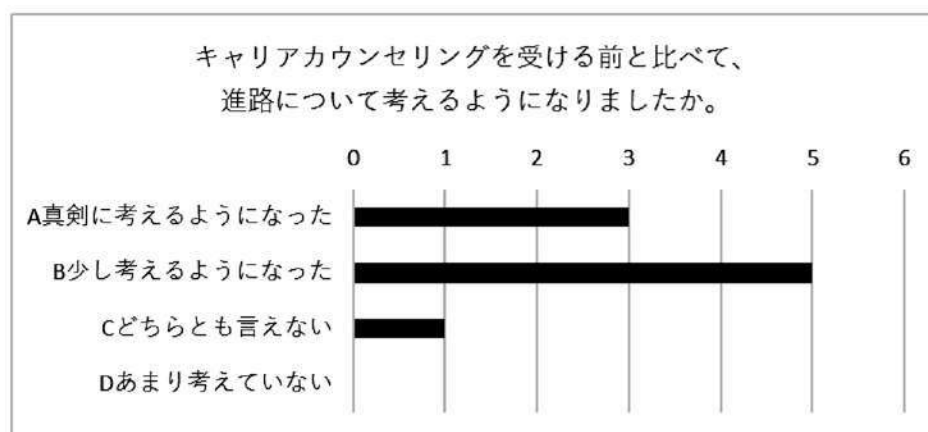
いて考えるようになったと答えた生徒が80%以上、ほとんどの生徒が「相談できた。話を聞いてもらえた。気軽に話せた。」と肯定的に答えた。特筆すべきは、大半の生徒が「機会があればまた面談で相談したい」「就職について詳しく聞きたい」「進学について詳しく聞きたい」と答え、「電話やメールなどでも相談に乗ってほしい」はゼロである。これは、講師への信頼度の高さと対面での相談が有効であることを示している。生徒は自分の頑張りを認めてくれる（学校の）外の人と直接話をしたい。そこから自信も踏み出す勇気も生まれてくる。

本校に入学する生徒は、まず基本的な生活習慣と規則正しい学校生活の構築が第一で、自己の将来像を考える段階にはなかなか至らない。登校するのが精一杯という生徒が、学校の外から来た桑名先生を通して社会に触れ、その結果「進路について考えるようになった」と全員が回答している。

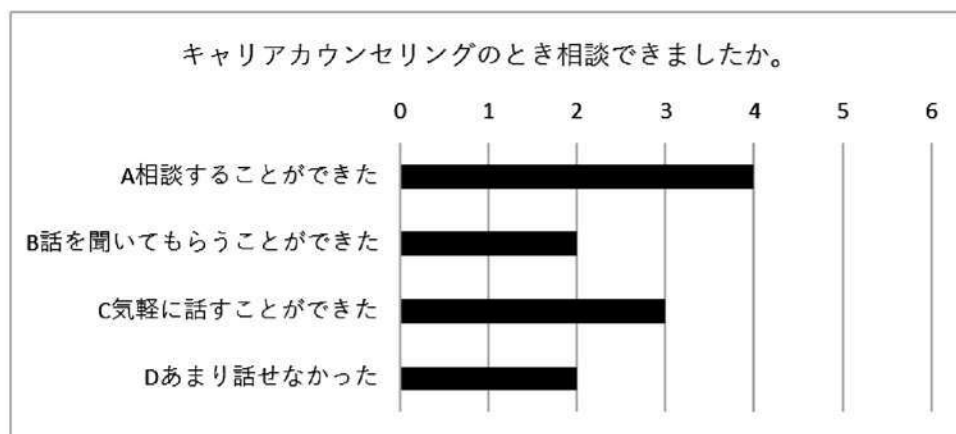
本校の課題は、まず学習（単位修得）と学校生活によって生徒一人ひとりに自信を持たせること。事業の継続については、計画の立案と講師派遣費用の捻出がある。これは若者就職支援センターの事業を活用させていただき、次年度以降も継続したいと考えている。私たち教員は生徒への願いと意思を持ってかかわっていききたい。その思いで進路実現に向けて一つ一つ実践していくことである。

アンケート キャリアカウンセリングと進路講話を振り返って（実施日12月8日）

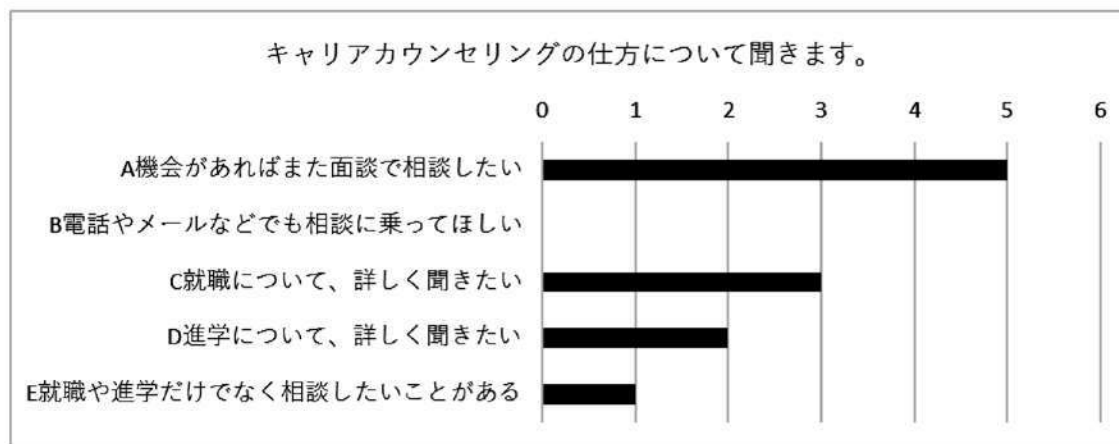
A キャリアカウンセリングについてお尋ねします。受ける前と比べて、進路について考えるようになりましたか。



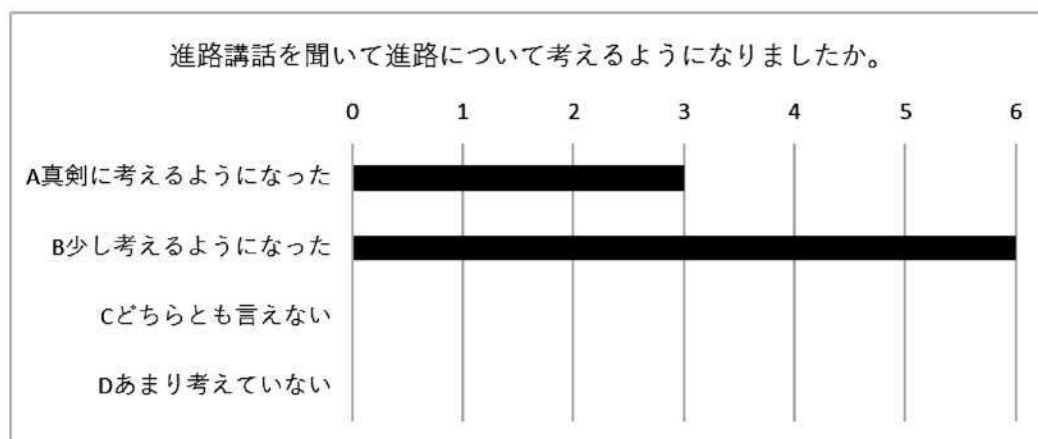
B キャリアカウンセリングのとき相談できましたか。(複数回答可)



C キャリアカウンセリングの仕方について聞きます。(複数回答可)



D 進路講話についてお尋ねします。「高校生と社会人 Q&A」という講話を聞いて進路について考えるようになりましたか。





進路講話・ワークショップ



進路講話「社会人と高校生Q&A」

E 進路講話を聞いて、参考になったことや感想を書いてください。

- ・ 残り三ヶ月になりましたが、昨年からいろいろと話せて本当によかったです。ぼくにとっては、これが最後の進路講話になりますが、卒業式の時にも桑名先生が来てくれたらいいなと思います。
- ・ 面談の時もですが、自分が上手くしゃべれないのに親身になって相談に乗ってくれてうれしかった。今回の講話の時に話していたことが、自分に言われているようでドキリとした。桑名先生にありがとうと言いたい。将来についてあまり考え過ぎなくても良いということが分かった。
- ・ 進路について考えていなかったが、質問で出ていたようになったときの対処や、どう考えるか、わかってよかった。
- ・ とても参考になったと思う。進学を考えているので、真剣に聞いた。
- ・ 去年から講話を聞いていましたが、すごく尊敬してしまいます。やっぱり聞いていて飽きることもなくて、すべてためになることばかりです。今日はありがとうございました。

(5) 山形県立酒田西高等学校 (定時制)

①本校の進路状況・取り組み

平成27年度 卒業生1名

- ・日本郵便株式会社 東京支社

平成28年度 卒業生6名

- ・新潟大学・東京工科大学・東北公益文科大学・山形県立産業短期大学(庄内校)
- ・羽陽学園短期大学・株式会社 モリタ

平成29年度 卒業生8名

- ・山形県立産業短期大学(庄内校)・株式会社 トー屋(2名)※アルバイト→正社員
- ・株式会社 ソーシャルサービス

【今年度の主な取り組み】

- 平成29年 6月21日(水) 自分らしいキャリアを選択する。
山形大学 農学部 副学部長 教授 小沢 互 氏
- 平成29年 7月 5日(水) 先輩からの講話
- 平成29年 8月 1日(火) 酒田地区高校3年生模擬面接会
- 平成29年11月25日(土) 進研模試総合学力テスト
- 平成29年12月13日(水) 社会人としての生き方
キャリアカウンセラー 桑名 暢 氏
- 平成29年12月15日(金) 進路研修会(酒田調理師専門学校)

②キャリアカウンセラー派遣事業について

- 平成29年12月13日(水) 社会人としての生き方
キャリアカウンセラー 桑名 暢 氏

【生徒の感想】

- ・ 「自分の夢が決まっていなかったのは出来る事がたくさんあるということだ」と言っていたが、自分も自信が持てました。
- ・ 私はパソコンについての職業を質問しました。パソコンを使うような職業は97%が東京にあることを知りました。将来はパソコンを使った職業につけるようにがんばります。
- ・ 講師の先生は、話し方がとてもわかりやすく、話すときは腰が低く聞いていてとても楽しかったのでまた来てほしいです。
- ・ 自己PRについて、定時制高校は朝から昼までアルバイトをし、夜に学校で勉強していることが一番のPRになることを知りました。面接で聞かれたときはそのことを使おうと思います。



2 事務局より

昨年度キャリアカウンセラーの派遣について、拠点校に週1回の勤務体制の範囲でかつ夜間定時制の勤務等を含めた調整をしましたが、事務局が力足らずで桑名先生の「なるべく要望にお応えしたい」というご厚意に甘え、無理を強いてしまいました。今年度はその反省をもとに検討し、連携校に推進会議で「2回程度」という回数を提示して調整を図り、各校の状況にあわせ1～3回の派遣ということでした承いただきました。

この研究を進めるにあたり連携校への普及とは大きな命題でした。拠点校で展開している事業のすべてとはいかないまでも、生徒対象の講座・講演、職員研修会、キャリアカウンセリングなど多岐にわたったメニューに対応してくださった桑名先生に感謝申しあげるとともに、積極的にこの事業を活用してくださった連携校の皆様感謝申しあげます。

各校の生徒の感想などを見ましても、本事業が自らの将来、進路についての自信に繋がっている手応えを感じました。様々な事情から定時制・通信制に入学してくる生徒には、大きな一歩になったと思います。本事業は今年度で終了しますが、この取り組み・繋がりを各校で別の形で残していただくことを切望します。